

# 学習指導案の形式（例） 中学校保健体育科

第○学年○組 保健体育科学習指導案

令和○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名 ○○○○○○○○○（学年）

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を書く。学習指導要領〔体育分野〕A～Hそれぞれの記号が教育内容の単位に当たる。学習指導要領〔保健分野〕の名称を書く。

2 単元の見出し

- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～できる。） [知識及び技能]
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。） [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～しようとする。） [学びに向かう力、人間性等]

◇学習指導要領の目標及び内容（指導事項）を踏まえて設定する。  
 ◇ねらいを明確にするために（1）～（3）の文末には、〔資質・能力名〕を明記する。ただし、保健分野で「技能」がない場合は〔知識〕と書き、〔技能〕を削除する。  
 ◇生徒の立場で書く。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 例：～している。「知識」 ② 例：～できる。「技能」	① 例：～している。「思考・判断」 ② 例：～に伝えている。「表現」	① 例：～しようとしている。 ② 例：～留意している。「健康・安全」

◇「知識・技能」については、「知識」の評価規準と「技能」の評価規準に分けて設定する。「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、「愛好的態度及び健康・安全は共通の指導事項とし、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任・参画、共生」の中から、各領域で取りあげることが効果的かつ具体的な指導事項を重点化して設定する。  
 ◇当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項の文末は、技能については「～できる。」、知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」については「～している。」、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外については「～しようとしている。」と表記して作成する。  
 ◇評価規準の設定に当たっては、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」等を参考にして適切に設定する。

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法
一	1	○例：～できる。 ○例：～の見通しをもつ。～を書く。 ◇ねらいを明確にして書く。 ◇生徒の立場で書く。	[観点①]（方法） ○例：～している。 ～しようとしている。
	2		◇「3 単元の評価規準」の観点と一致させ、番号でつなげて書く。

5 指導上の立場

- 単元観
- 生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

◇単元観…本単元で身に付けさせたい資質・能力、その単元を取り上げる意義や単元と生徒の関係等を書く。  
 ◇生徒観…本単元に関する興味・関心、資質・能力の状況、既習事項の定着度等について書く。本単元において目指す生徒の姿等を書く。  
 ◇指導観…指導・支援の重点、学習形態、その他の配慮事項等、生徒のよさや可能性を生かすような指導方法の工夫等を書く。  
 ◇研究主題との関連…研究主題の説明を簡潔に書き、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

例：～することができるようにする。

- ◇「2 単元の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 ◇生徒の立場で書く。	○ ◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2 (1) ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。	○ めあて ◇生徒の目的意識のまとまりを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。	◇本時の目標と評価規準を具体的に書かず、抽象的な文言で、実際には評価し難いものになる。具体的化する。◇評価の場面は1、2箇所に絞る。◇評価規準に合わせて、評価の観点・項目を明記する。◇評価方法を具体的に書く。
(2) 例：～について話し合う。 ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。	○例：～することで、～できるようにする。 ◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手だて ・生徒が対話的に学習を進めるための手だて ・生徒が学習を深めるための手だて ・生徒一人一人の学習状況に応じた手だて ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手だてを書く。	○例：～している。 〔評価の観点〕 〔評価方法〕 ◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
3		
4	○ まとめ ◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。	
5	○ ◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿 例：～している。

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。